



いつでも
なんでも
いっしょうけんめい

真野川

稲井中3つの「あ」

あいさつ

あきらめない

あいてのために

【第37号】

発行日
平成26年2月5日

稲井中電話番号
0225-91-2314
FAX 91-2315

「3.11」の恩返し 稲井中からフィリピンへ義援金

1月26日の「石巻かほく」に掲載され、ご存じの方も多いと思いますが、昨年11月、台風により甚大な被害を受けたフィリピンの人々を支援しようと、生徒会執行部と福祉委員会が中心となり学校で募った募金をフィリピン出身者で構成される団体に送りました。募金額は36,755円でした。募金に当たっては、授業参観で来校された保護者の方々からもご協力をいただくことができ、子どもたちの善意を支援していただきました。ありがとうございました。右段に新聞記事を掲載しましたのでお読みください。



1月26日付 石巻かほく (記事抜粋)

稲井中の生徒会と福祉委員会は1月23日、校内募金で集めた現金3万6755円をフィリピン出身者で構成する組織、石巻フィリピン・ハワックカマイに贈った。2年生で生徒会長の松尾亮太君、福祉委員会委員長の保原雄大君が現金が入った募金箱を石巻フィリピン・ハワックカマイ代表の斉藤アデライダさんに手渡した。松尾君は「東日本大震災では、世界各国から支援を受けた。その

恩返しをしたかった」、保原君は、「役に立つ活動ができてうれしい」と語った。アデライダさんは「涙が出るほどうれしい。心から感謝している」と応えた。昨年12月3日から18日、生徒会役員と福祉委員会のメンバーが昇降口で募金箱を持って登校する生徒に呼びかけた。募金はカトリック教のボランティア組織「カリタス・ジャパン」を通じて現地へ送金される。



1年生は明日 職場体験活動

1年生60名は明日、市内及び近郊の事業所等で「職場体験活動」を行います。2人から6人の各グループに分かれ職場を訪問し、勤労体験活動を行ってきます。これまででも事前指導をしてきましたが、当日は時間に余裕をもたせ、家を出るようご配慮をお願いいたします。慌てて交通事故などにあわないようお声掛けいただければ幸いです。また、朝に送っていただくことになる保護者の皆様にはご迷惑をおかけしますが、よろしく願い申し上げます。



▲昨年度の職場体験活動から

2月8日(土)2年生は 立志式

武士社会で行われていた「元服の儀」にちなんで、14歳になった若者を祝う立志式が、本校第2学年PTA主催により、2月8日(土)午前9時30分より、体育館で行われます。2年生の保護者の皆様にはすでにご案内が届いていると存じます。子どもたちも当日の発表に向け、準備をしているところです。2月8日は立志式へご参加いただき、子どもたちの節目を祝っていただければ幸いです。



▲昨年度の立志式から

自転車の乗り方が悪い! 地域の方々から学校に電話

「稲中生の自転車の乗り方が悪い」「危険だ」という電話が最近多くなっています。車を運転していて、子どもと歩いていて、家の前で登・下校の様子を見ていてなど、電話の内容は様々ですが、稲井中生の自転車の乗り方が良くないということです。もちろん、生徒全員を指してのことではありませんが、並列や蛇行運転など、地域から指摘を受けていることは事実ですので全校生徒の課題として受け止めたいと思います。昼の放送や帰りの会などで、生徒指導担当・学級担任から安全についての話をしていますが、ご家庭でも、自転車は運転していれば車両として扱われること、状況次第では車両を運転していた交通事故の加害者となり得ることをお話してください。



生徒諸君-必読!

こんな事例もあるのです!

▼インターネット記事から

事故は平成20年9月22日午後6時50分ごろ、神戸市北区の住宅街の坂道で起きた。当時11歳だった少年は帰宅途中、ライトを点灯しマウンテンバイクで坂を下っていたが、知人と散歩していた女性に気づかず、正面衝突。女性は突き飛ばされる形で転倒し、頭を強打。女性は一命を取り留めたものの意識は戻らず、4年以上が過ぎた今も寝たきりの状態が続いている。当時小学校5年生だった少年(15)が乗った自転車と歩行者との衝突事故をめぐる損害賠償訴訟で、神戸地裁は、少年の保護者に約9500万円という高額賠償を命じた。5年近く前に被害に遭った女性は、事故の影響で今も寝たきりで意識が戻らない状態が続いているだけに、専門家は高額賠償を「妥当」と評価する。(記事の一部を抜粋しました)

子どもが起こした事故だから、自転車による事故だから、その扱いは軽くではありません。車両による大きな交通事故として扱われた事例です。交通事故と聞くと、被害者となる場合が多いのですが、自転車を運転している以上、加害者になってしまう事故もあることを忘れてはいけません。地域の方々からの電話も、みんなの安全を願っていただければその電話です。「自分には関係ない」ではなく、交通事故の被害者・加害者とならないよう、交通ルールを守り、十分気を付けて自転車を運転しましょう。